

Day 02: Introduction

Organization of Today's Class

1. Pre-Class Work 02
2. 科学する心
3. 言語能力と言語運用
4. ソシユール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論
5. 人称代名詞と日本語：事例研究

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

2. 科学する心

(1)

写真提供：
U.N.Limited



自然に対する純真な驚異の念から出発すべきも

平凡な世界のなかに不思議を感じることも科学の重要な要素

(中谷宇吉郎)

2. 科学する心

(2)

単純なことに驚くことができるようになるというのは大切なこと

科学は、日常生活の最も単純な現象が極めて重大な問題を呈示していることに気づくことから始る

(Chomsky)

(3) 素朴理論と科学理論

自分の「素朴理論」とあわない「考え方
・理論」に出会ったとき

「客観的に見ることが大切だ」

「常識を疑ってみることも必要だ」

しかし、口で言うほど簡単ではない

Homework 01から

(4) 提出された疑問点・不思議に思う点

a. 本当に事実か、確認が必要

b. 事実だとして、客観的・科学的「説明」が可能か

(5) 自分の母語に関する「素朴理論」(こうゆうものだとして信じてきたこと)は、それを一旦取り除くのはとても難しい場合もある

(6) Pair Work

「言語はコミュニケーション(人間同士の意思情報の伝達)のために発達した機能である」

- a. この命題が本当に成り立つためには、どのようなことを客観的に示せばよいか。
- b. この命題が必ずしも成り立たないことを示すには、どのような事実があればよいか

Class Work

言語はコミュニケーション(人間同士の
意思情報の伝達)のために発達した機
能である

- a. はい。(それ以外は考えにくい)
- b. いいえ。(そうとは限らない)

1. Pre-Class Work 02

2. 科学する心

3. 言語能力と言語運用

4. ソシユール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論

5. 人称代名詞と日本語：事例研究

3. 言語能力と言語運用

(7)

- a. 研究対象は頭の中の言語知識・言語能力
- b. 実際のデータは出てきた言語現象(実験・観察)

(8) データに含まれる「ノイズ」を取り除く必要あり

(9) 物体の運動

- a. 本質:「重力」「慣性」など
- b. ノイズ:摩擦、空気抵抗など

(10)

- a. **言語能力 (competence)** : 頭の中の潜在能力 (外的要因に左右されず)
- b. **言語運用 (performance)** : 実際の言語使用 (基本的には(10a)の表れだが、外的要因にも左右される)

(11) 足し算の知識: 次の式は正しい?

a. $1 + 1 = 2$ ○

b. $1 + 1 = 4$ ×

c. $1234 + 9876 = 11110$ △

(12)

- a. 太郎が花子が来たと思っている ○
- b. 次郎が太郎が花子が来たと思っていると言った △
- a'. 太郎が[花子が来た]と思っている
- b'. 次郎が[太郎が[花子が来た]と思っている]と言った

- c. 太郎だけが来た ○
- d. 太郎しか来た ×

Organization of Today's Class1.

Pre-Class Work 02

2. 科学する心

3. 言語能力と言語運用

4. ソシユール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論

5. 人称代名詞と日本語：事例研究

4. ソシュール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論

(13) 単語は音と意味の「恣意的な arbitrary」結びつき

(フェルディナンド・ソシュール
Ferdinand de Saussure)



[http://ja.wikipedia.org/wiki/
フェルディナン・ド・ソシュール](http://ja.wikipedia.org/wiki/フェルディナン・ド・ソシュール)

(14) Martin Joes

諸言語は、際限なく、また予測不可能な形で、相互に異なり得る

(15) サピア・ウォーフの仮説

(Sapir-Whorf Hypothesis) (言語相対性仮説・言語的相対論)

Edward Sapir

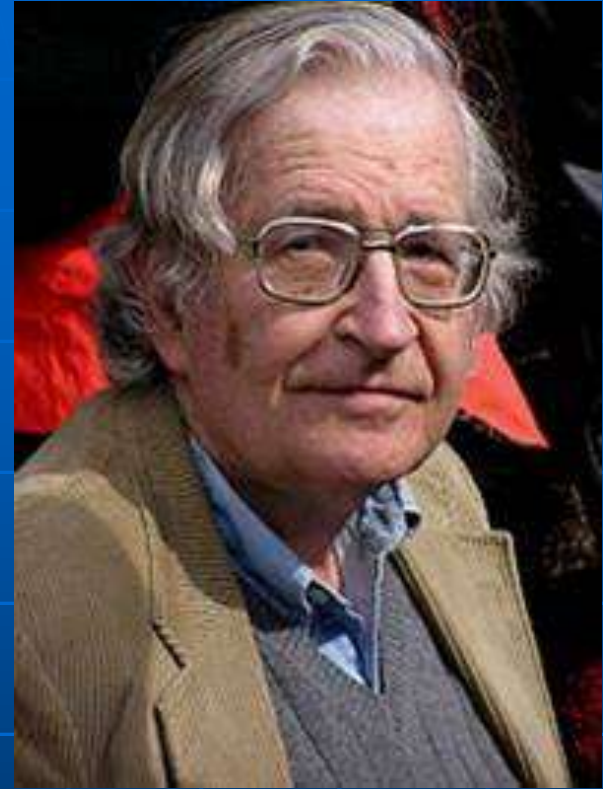


http://en.wikipedia.org/wiki/File:Edward_Sapir.jpg

Benjamin Whorf

言語が話し手の思考を大幅に規定する

(16) Chomsky: 言語生得論



言語獲得の論理的問題

が示していることは

「人間が獲得し得る

言語はすべて同質のものである」

ということだ

[http://ja.wikipedia.org/wiki/](http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Chomsky.jpg)
ファイル:Chomsky.jpg (CC BY 2.0)

(17)言語獲得の論理的問題

(the logical problem of language acquisition)

子供は、生まれて4～5年のうちに、民族や人種に一切関係なく、生育する環境で話されている言語の知識を、明示的な説明なしに獲得してしまう。子供の言語に関する経験は極めて限られたものであるのに、なぜ、このような言語知識の獲得が可能なのだろうか。

(18) 言語に難しい・やさしいはない

(19) 言語(方言)間に優劣はない

人間の頭の中の言語能力

生まれつきの資質によるものは何か？

生後、身につく部分はなにか？

理論言語学の最重要テーマ

1. Pre-Class Work 02

2. 科学する心

3. 言語能力と言語運用

4. ソシユール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論

5. 人称代名詞と日本語：事例研究

5. 人称代名詞と日本語: 事例研究

(20) 英語の一人称主格は「I」一つなのに、なぜ日本語には「私」「僕」「俺」など複数の言い方があるのか？

youに対して、「君」「あなた」「おまえ」「きさま」「貴殿」

heに対して、「彼」「やつ」「あいつ」etc.

(21)「わたし」「あなた」「彼・彼女」名詞説

日本語のこれらの表現は、英語や他の西洋言語
でいうところの「**人称代名詞**」ではない

すると:

(22) 日本語には「人称代名詞」がたくさんある、と
いう命題は成り立たなくなる。

=> この点で英語と日本語の違いはなくなる

(23) 日本語の人称代名詞はゼロ形(＝ゼロ代名詞)

イタリア語・スペイン語・韓国語・中国語

(主語代名詞ゼロ形)

(目的語代名詞もゼロ形)

(24)では、「私」「俺」「あなた」「お前」「彼」「あいつ」などは何か？

(25)普通名詞

Did Taro eat the apple?

Yes, **he** ate **it**.

太郎君はそのリンゴを食べたの？

うん、**[e]** **[e]** 食べたよ。

ちょっと一般的に考えてみる

(26) 話者と聞き手(その他の状況)との関係やそれぞれの特性を明示する言語表現はどの言語にもたくさんある。(それが名詞を使うことによって行われる例)

a. Your father will be with you.

(父親が子供に言う)

b. Sit down, you bastard!

(cf. Would you take a seat please?)

c. We linguists do not trust you
logicians.

(27) 客観的な論拠はあるか？

(28) 仮説からの予測（一般的）

「私」「あなた」「彼」などは、英語の
人称代名詞とは異なる文法的ふる
まいをし、普通名詞と同じ文法的
ふるまいをする。

(29) 具体的にどのような検証(実験)をすればよいかは研究者の腕のみせどころ

* その意味で、研究(実験)は大変創造的な営み

(30) 人称代名詞は「制限的修飾」を受ける
ことができない。普通名詞はできる

a. busy father vs.

*busy I / *busy me

b. a girl with a hat vs.

*she with a hat / *her with a hat

c. the boy last week vs.

*him last week

(31) 仮説からの予測(具体的)

日本語の「わたし」「あなた」「彼」は、
「制限修飾」を受けることができる
(普通名詞なのだから)

(32)実験

- a. 忙しい私、忙しいあなた、忙しい彼
- b. 帽子をかぶった彼女
- c. 先週のあなた / 先週の彼

(33)実験結果が予測通りである限りにおいて、仮説の確からしさが増す(証明ではない)

(34)「人称を表す表現が多いのは、日本語は相手との関係を重視する言語だから」という「説明」(この説明自体は正しいかもしれないが、それを客観的に示すことは簡単ではない)で満足してしまっでは、「わたし」「あなた」などが普通名詞(的特徴を持つ)であることに気がつかないかもしれない。日本語の特徴を捕まえ損なう。

(35)さらにこの仮説の興味深い点

人称代名詞のふるまいに関して、日本語と英語が違うという必要はなくなる

唯一の違いは、ゼロ代名詞を許す言語(日本語)か許さない言語(英語)かという、**文法上違い**1点に集約される。

今日のまとめ

1. Pre-Class Work 02
2. 科学する心
3. 言語能力と言語運用
4. ソシユール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論
5. 人称代名詞と日本語：事例研究

[Worksheetの下半分Post-class worksheetを書いて提出]